

二〇二四年度  
晃華学園中学校

第三回  
入学試験問題

【国語】

時間…五〇分  
配点…一〇〇点

答えはすべて解答用紙に記入すること。



問題は次のページから始まります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「わたし」（「路子」）は姉の「笹子」とサンドイッチ店『ピクニック・バスケット』を経営している。取引先の『かわばたパン』の「川端勇」には小学生の姪の「秋美」がいる。「秋美」はハイキングの昼食で、同級生の「元村」と手作りのパンの勝負をすることになる。「わたし」は「秋美」にサンドイッチのつくり方を教わるように勧めたが、「秋美」はその誘いを断る。

夕方、薄暗くなり始めた鞆公園のベンチに、長い髪の女の子がぼつんと座っている。秋美ちゃんだ。彼女がそこにいることを、真理奈ちゃん（＝顔見知りの高校生）に知らされて、わたしは様子を見に来たところだった。

彼女はひとりで公園まで来たらしい。真理奈ちゃんがたまたま見つけて声をかけたが、<sup>①</sup>帰らないと言いつ張ったという。じきに暗くなるのに、さすがにひとりにはしておけない。

秋美ちゃんは、紙袋を膝に置いて、うなだれている。近づいていき、わたしは声をかけてみる。

「どうしたの？ 真理奈ちゃんが心配してるよ。お家まで送ろうか？」  
顔を上げて、わたしをちらりと見たが、彼女はすぐにうつむいてしまう。

「もしかして、『かわばたパン』へ行きたいの？」

明日はハイキング当日のはずだ。ひとりではうまく焼けなくて、川端さんに相談したくても言い出せないのではないかと思っただ、彼女は首を横に振った。わたしは隣に座り、夕焼けの空を見上げる。

「すぐきれいな夕陽だよ。明日、きつといい天気だね」

それを喜べない様子だ。わたしが隣にいても、いやがる様子はなかったから、秋美ちゃんが何か言い出すのを待つことにした。  
「サンドイッチの魔法、本当にどんなパンでもおいしくなるんですか？」

しばらくして、小さな声が聞こえた。

「うん、なるよ」

わたしは迷わず答えている。

「ハイキングに持っていくパン、サンドイッチにするの？ 川端さんに教わって、焼いたんだよね？」

領<sup>うなず</sup>ぐが、また黙<sup>だま</sup>り込んでしま<sup>こ</sup>う。膝に置いた紙袋を、悲しそうに見つめている。

秋美ちゃんは、サンドイッチの相談がしたくて来たのだろう。でも、店へ来るのをためらっているのは、ちょっと生意気なことを言ったと自覚しているからか。

「それ、パン？」

「うまくできなかつたんです」

同じレシピで、同じやり方をして、同じにはならない。わたしだって、笹ちゃんと同じ卵焼きはまだできないのだ。

「そっか、でも、調理でおいしくすれば大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>だよ。友達がびっくりするくらいステキなお弁当にしよう」

「そんなこと、本当にできるんですか？」

「うちの料理人、笹ちゃんならね」

行こう、と秋美ちゃんを促<sup>うなが</sup>す。迷いながらも彼女は立ちあがる。

「いいんですか？」

「もちろん。サンドイッチ、つくりたくて来たんでしょ？」

やっと彼女は歩き出し、遠慮<sup>えんりょ</sup>がちにわたしのあとをついてきた。

「秋美ちゃんが来たよ」

わたしが開けたドアから、おずおずと秋美ちゃんは、『ピクニック・バスケット』へ足を踏<sup>ふ</sup>み入<sup>い</sup>れる。店内で待っていた真理奈ちゃんはほっとした顔で秋美ちゃんに手を振り、笹ちゃんは明るい笑<sup>えが</sup>顔を向けた。

「こんにちは、秋美ちゃん」

その笑顔に誘われるように、笹ちゃんに近づいていった秋美ちゃんは、持<sup>も</sup>っていた紙袋を差し出して、深々と頭を下<sup>さ</sup>げた。

③「これ、わたしには精一杯<sup>せいじつぱい</sup>のパンなんです。あんまりおいしくできなかったけど、友達には笑顔になってもらいたいです」

「見ている？」

断<sup>つ</sup>つてから、笹ちゃんはパンを取り出す。三つ山の食パンが、二つある。手作り感はあるけれど、見た目はちゃんとした食パンになっている。

「いい匂<sup>にお</sup>いじゃない」

ひとつは、焼き色はきれいだけれど、<sup>④</sup>膨らみが足りない。もうひとつは、外側を少し焼きすぎたようだけれど、もう少しふっくらしているから、中のパンはやわらかそうだな。

「とにかくおいしいサンドイッチにしたいんだって」

笹ちゃんは、わたしの言葉に頷きつつも、「頭の中にはもういろんな料理のイメージが浮かんでいることだろう。」

「何かこう、楽しくて、みんなで盛り上がるようなサンドイッチがいいかなあ」

どんなのだろう。笹ちゃんのアイデアを知りたくて、わたしもワクワクしてしまう。真理奈ちゃんも、気になる様子でパンを覗き込む。

「そうだ、笹ちゃん、卵は使わないでね。秋美ちゃんのクラスメイトの妹が、卵が食べられないって、パンにも卵を使っていないらしいから。だよな？」

わたしが口を出すと、秋美ちゃんはあわてた様子で頷いた。

「は、はい。やだ、大事なことなのに忘れかけて」

いろんなことを一度に考えたり進めたりしなければならぬのが料理だ。それを、パン作りから始めるのはなかなか大変だし、秋美ちゃんはいっぱいいっぱいになっていることだろう。

「あれ？ でも、どうしてそのことを……」

「うん、川端さんにチラッと聞いたの。秋美ちゃんはやさしい子だって」

「わたし、やさしくなんてないです」

「大丈夫、やさしくなりたいって思えるのは、やさしい証拠だから」

秋美ちゃんはやっと、体の力を抜いたように見えた。

「よかったわ、路子さんに頼んで。路子さんは、なんかこう、人を緊張させへんから」

真理奈ちゃんがそんなことを言う。

「えー、そう？」

「あたしなんか、ついタメ口になっちゃうくらい、親しみやすいから」

そういうところは、これまで恋人に軽く扱われてしまう原因でもあったのだろうけれど、今は素直に、そんな自分が悪くないと思

えた。

「卵なしね。わかった。えらいね。ちゃんと、いっしょに食べる人のこと考えて」

笹ちゃんにほめられて、秋美ちゃんは⑤はにかむが、ブンブンと首を横に振る。

「わたしじゃなくて、元村くんがえらいんです。妹のために、卵の入ってないパン作りを始めて、おいしくなるよう研究して。なのにわたし、『かわばたパン』よりおいしいってほめられてんのに勝手にムカついて。勇くんに教えてもらえたら簡単につくれるって思い込んで」

「じゃあもう、A ってことね」

秋美ちゃんは頷いたが、まだ少し不安そうだ。

「わたしでも、つくれますか？」

「大丈夫。とっても簡単だけど、みんな驚くから」

「笹ちゃん、どんなものにするか、もう決めたの？」

「うん。落ちゃん、あれにしよう。この前、予約注文でつくったやつ」  
なるほど、とわたしは手をたたいた。

「秋美ちゃん、下準備だけこれからいっしょにやっておいて、あとは明日の朝、自分でつくれる？ パンに具材をはさむだけだから、難しくないし」

力強く、彼女は頷く。

「笹子さん、どんなのつくんの？」

真理奈ちゃんも B だ。

「これ」

と笹ちゃんは、この前つくったものを写した、スマホの写真を見せる。覗き込んだ秋美ちゃんと真理奈ちゃんはそろって声を上げた。

「なにこれ、すごい！」

「パンシュープリーズっていうの。驚きのパン、って意味」

川端さんに特注した山型食パンを使ったものだ。一本まるごとの食パンの上を切り取り、中のパンをくりぬいて、器うつわのように使う。

くりぬいたパンは薄切りにして、小さなサンドイッチをたくさんつくり、パンの器に詰める。食パンの中に、サンドイッチがぎっしり詰まっているという、驚きのパンだ。

リボンを使ってかわいくラッピングしたまるごとのパンを、パーティーで開くとなかなか盛り上がるので好評なのだ。

長い一本の食パンが、でんとテーブルに置いてあったら、そのまま丸かじりでもするのかと、みんな不思議に思うだろう。そこで上の部分を開けると、色とりどりの具材はさんだサンドイッチが現れる。

想像するだけで、ワクワクするのは、わたしだけではない。

「あたしも手伝っていい？」

真理奈ちゃんも加わり、四人でキッチンに入る。秋美ちゃんと真理奈ちゃんには、わたしのエプロンを貸す。

「焼きすぎたほうのパンは、中身がふっくらしてるから、中だけ C にしよう。もうひとつのパンは外側がいい感じだから、

D にね」

笹ちゃんの指示通りに、食パンの中を四角くきれいに切り出す。食パンの耳を器に、内側の白いところは薄くスライスして、サンドイッチのパンにするのだ。

「外側だけ使うパンの中身はどうするの？」

「それはね、少し固いから、別の料理に。フレンチトーストやパンがゆにするといいよ。作り方、教えるから」

パンのカットだけすませ、実際にサンドイッチをつくるのは、明日の秋美ちゃんの仕事だ。今日のところは、余っている食パンを練習に使うことにする。わたしたちの明日の朝食は、パンシユープリーズだ。

サンドイッチの具材は、シンプルにハムやチーズ、キュウリにレタス、ツナポテトもいいね、と笹ちゃんはノートに書いていく。もちろん、卵を使っていない素材だ。少しパスつくパンのために、やわらかいマーガリンを使ったり、クリームチーズで味に変化をつけたりしている。秋美ちゃんはつくりながら、写真を撮ったりメモをしたりする。

食パンの器には、小さめサイズのサンドイッチをたくさん詰め込む。並べるときに縦横の向きを変えると、幾何学的な模様になる。開けたときに、あつと驚くような見栄えも大事だ。

「器もパンだから、あとでおいしくいただきますでしょう。ジャムやハチミツ、チョコレートソース？ みんなでちぎって、好きなのを塗って食べるの。いろいろ持っていくといいよ」



楽しいランチタイムになりそうだ。

秋美ちゃんも、どんな表情がほころび、楽しそうになっていく。明日のハイキングでは、元村くんとも笑顔でパンを食べくらべることができただろう。

\*

週が明けて、秋美ちゃんから送られてきた写真には、きれいに出来上がったパンシュープリーズと、生駒山頂でお弁当を広げながら、家族や友達とはしゃぐ様子が写っていた。

バターロールにハンバーグやチキンがはさんであるものは、元村くんのパンだろうか。ふわふわでとつてもおいしかった。とメッセージにある。

わたしのパンも大好評でした。パンの味はきつとまだまだなのに、サンドイッチにただで、すごくおいしくなって、びっくりしました。具を工夫するだけで、パンの欠点をカバーして、誰が食べてもちゃんとおいしい料理にできるなんて、料理人はすごいなって思いました。

早起きして、実際にサンドイッチをつくったのは、秋美ちゃん自身だ。具材をはさんで食パンのケースに詰めるだけなので、難しくはなかったはずだけれど、彼女はもう、サンドイッチは誰にでもつくれるとは思っていない。

食べ物に魔法をかけることは、きつと誰にでもできることだけれど、誰でも魔法のかけ方を知っているわけじゃない。笹ちゃんは、サンドイッチというパンのための最高の魔法を知っている。

「路ちゃん、追加のサンドイッチ、できたよ」

笹ちゃんがキッチンから呼ぶ。わたしは出来立てを店へ運び、ショーケースに並べていく。サンドイッチがたっぷり詰まったショーケースは、やっぱりステキだ。

⑥「おいしい、って何だろうね。単純に味だけじゃないんだよね」

キッチンから出てきた笹ちゃんに、わたしは言う。笹ちゃんは、さつとショーケースを確認し、指で丸をつくる。

「うん、秋美ちゃんは、元村くんが妹さんのためにつくったパンだから最高なんだってわかったし、彼も秋美ちゃんの努力を感じて、

本当においしいと思ったはずよ。それに、ハイキングの目的地で食べるランチは、それだけでどんなに凝った料理もかなわないよ」

(谷瑞恵『ふれあいサンドイッチ』)

問一——線部①「帰らないと言い張った」とありますが、それはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア きれいな夕焼けを見ながら、おいしいパンの作り方を考える時間がほしかったから

イ 初心者でもうまく焼けるパンの作り方を、「勇」からこそ教わることになっていいるから

ウ パンをうまくつくれなかったことを、どうにか解決するまでは帰るわけにはいかないから

エ パンの材料を無駄に使ってしまったことを怒られると思って、家に帰りづらいから

問二——線部②「持っていた頭を下げた」とありますが、秋美はどのような気持ちですか。次のア～オの中から適当なものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア サンドイッチの作り方を無料で教えてくれることに感謝している

イ 「笹子」においしいサンドイッチの作り方を教えてほしい

ウ 「わたし」や「真理奈」とサンドイッチをつくることを楽しみにしている

エ 生意気なことを言ってしまったことを謝りたい

オ 自分を心配してくれた「真理奈」に対して礼儀正しくしよう

問三——線部③「これ、パンなんです」とありますが、それはどういうことですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 試作を何度もくりかえし、自分なりに作り方を工夫しつくしたということ

イ 全国各地から高級な材料を厳選してつくったものであるということ

ウ 「勇」に教わったとおり丁寧につくったが、思ったようにはいかなかったということ

エ おいしいサンドイッチになるように努力したが、うまくいかなかったということ

問四——線部④「膨らみ」とありますが、同じ用法のものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 彼女はほほえみながらうなずいた。

イ お茶を飲み、おにぎりを食べた。

ウ 固いくるみの殻を割った。

エ 桜の花が咲くのを楽しみにしている。

問五 — 線部⑤「はにかむ」の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア ありがたがる      イ うれしがる      ウ 思いあがる      エ はずかしがる

問六 [A] にあてはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 好きなものを持ち寄って、いっしょに食べよう

イ 競争じゃなくて、いっしょにおいしいパンを食べよう

ウ パンだけじゃなくて、卵が入っていない料理をつくろう

エ 思い切って、どれだけたくさん食べられるか競争しよう

問七 [B] にあてはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 以心伝心      イ 疑心暗鬼      ウ 興味津々      エ 一心不乱

問八 [C]、[D] にあてはまる言葉は何ですか。次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア パンがゆ      イ フレンチトースト      ウ サンドイッチ用のパン      エ ランチョンマット      オ ケース

問九 — 線部⑥「おいしい」味だけじゃないんだよね」とありますが、ここでは、おいしさを決めるのはどのようなことですか。次のア～オの中から適当なものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 大人数でも足りるくらいたくさん料理があること

イ 食べる人のことを考えて様々な工夫がされていること

ウ めったに手に入らない高級食材が入っていること

エ 家族や親しい友人と楽しく食べること

オ 有名なレストランのシェフが調理していること

問十 本文を読んだうえで、どのような状況で食べたものがおいしいと感じられそうですか。具体的な例をあげて五十字以内で書きなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

シエルターにいる動物に子どもが本を読む

近年アメリカでは、子どもたちがアニマルシエルターにいる動物たちに絵本などの読み聞かせをするプログラムが各地で広まっています。(中略) ※ R.E.A.D.プログラムなどに参加するのは、飼い主がいて、十分なケアと訓練を受けているセラピー犬です。しかし、これらのプログラムは子どもたちがシエルターに保護されている猫や犬のために読み聞かせをする、というもの。そこには人間のハンズドラー(＝飼い主)も介在しません。どのようなプログラムなのでしょうか。

発祥の地はアメリカのペンシルバニア州バークス郡にある「アニマル・レスキュー・リーグ」(以下、ARL)という動物保護団体のシエルターです。ある日、ARLのボランティア・コーディネーターとして働くクリステイ・ロドリゲスが、本を読むのが苦手な息子をシエルターに連れてきて、「猫たちに本を読んであげたらどう?」と提案したところ、彼はすっかり猫に読み聞かせするのが好きになり、本を読むのを嫌がらなくなりました。そこでクリステイは、「うちの息子が気に入ったなら、きつと他の子どもたちも気に入るにちがない」と考え、二〇一三年八月、「ブック・バディ」という猫への読み聞かせプログラムを始めたのです。

① このプログラムはすぐに評判になり、多くの子どもたちが保護者に連れられてシエルターに来るようになりました。その一人で、当時七歳だったコルビーという男の子が猫に読み聞かせをする様子を撮影した写真は全米に広まり、その後多くのアニマルシエルターで同様のプログラムが生まれるきっかけになったといわれています。じつは私も、以前ARLのウェブサイトでその写真を見て感動した一人です。小さな男の子が茶トラ猫に腕を回し、抱きかかえるようにして絵本を読み聞かせている写真からは、あふれんばかりのやさしさと思いやりが伝わってきて、見ていっただけで心が温かくなります。

コルビーとお母さんのケイティにインタビューしたハフポストの記事によると、コルビーは本を読むことに強い苦手意識があり、読ませようとすると、自分は頭が悪いから読めない、と泣いて抵抗するほどでした。それが、たまたまコルビーのお祖母さんがARLか

らシニア犬を預かるボランティアをしていたことから、ブック・バディへの参加を勧めたところ、動物好きのコレビーは意欲を見せ、ついに猫たちに向かって本を読み始めました。そうするうちに読むのが苦にならなくなり、自信が付き、成績も上がったというのです。さらに、コレビーは自分が読み聞かせをした猫たちを三匹引き取ってもらい、家でも読み聞かせを続けたとのこと。このことはシエルトアを運営するARLにとつても②嬉しい驚きだったようです。もともとは本を読むのが苦手な子どもたちのためになれば、と始めたプログラムだったのが、そのおかげで新たな家庭に迎え入れられる猫たちが増えたのですから。

二〇一六年には、シエルトアに①いる犬のための読み聞かせプログラムもミズーリ州セントルイスにある「ヒューメイン・ソサエティ・オブ・ミズーリ」（以下、HSOM）で始まりました。子どもたちがシエルトアに収容されて②いる犬たちに読み聞かせをする「シエルトア・バディズ・リーディング・プログラム」です。ここでは六歳から一五歳までの子どもたちが犬の③いるスペースの外に座布団を敷いて座り、中に④いる犬に向かって一対一で絵本の読み聞かせをします。子どもと犬は透明の窓で仕切られていますが、下のほうは開いており、声が届くようになっていきます。

プログラムに参加するにあたっては、子どもたちは保護者とともに一時間半の研修を受け、まずは犬たちのボディランゲージの意味、犬を怖がらせない近づき方、静かな落ち着いた声で話すことなどを教わります。（中略）

HSOMによると、読み聞かせは犬たちの不安をやわらげ、落ち着かせる効果があるといわれています。吠え続けていた犬が静まったり、犬舎の奥で縮こまっていた犬が前のほうに出てきたりするなど、目に見える変化があるとのこと。そして、人が来ると前のほうに出てくるようになれば、その犬が引き取られるチャンスも高まります。このプログラムを始めてから、犬たちが譲渡先を見つけられるまでに要する⑤

1

⑥ そうです。

③ そのことを裏づける研究もあります。二〇二一年にオーストリアの獣医学大学の研究者たちがおこなった、人間の声と存在がシエルトアにいる犬や猫に及ぼす影響についての研究では、一四頭の犬と二匹の猫を対象に、あらかじめ録音しておいた本の読み聞かせテープを使い、人がそばにいた場合（スペースの外側で、直接の接触はない）と、録音だけを流した場合の行動を比較したところ、人がそばにいる状態で読み聞かせのテープを聞いた犬は、人に近い位置にある犬用ベッドで過ごし、声のするほうを見る時間が長かったとのこと。また、猫はドアを引っかいたり、体をこすりつけたりして人の注意を引こうとする行動が見られたそうです。このような行動を見せる動物たちはより引き取られやすいため、人間の声と存在を組み合わせることがシエルトアにいる動物たちの譲渡率を高めることにつながるのではないかと研究者たちは考えています。

私が取材した猫への読み聞かせプログラムをご紹介（しょうかい）します。ワシントン州シアトルにある老舗（らいせ）の動物愛護団体「シアトル・ヒューメイン」が二〇一四年からおこなっている「キティ・リテラチャー（猫のための文学）」です。（中略）

なんらかの事情で捨てられたり、野良（のら）で生まれ育つたりした猫たちの多くは人間を怖（おそ）がつており、ふつうはなかなか近づけません。無理に近づこうとすると逃（に）げてしまいか、シャーと威嚇（いかく）してくるでしょう。そんな猫たちが新たな家庭に引き取られるチャンスを高めるには、人に慣れ、人とかかわれるようになること（社会化）がとても重要ですが、このプログラムでは子どもたちにそのプロセスを手伝ってもらおうというのです。子どもたちは保護猫の社会化を助けるボランティアという位置づけなので、みんな誇（ほ）らしそうにボランティアのID証を首から下げています。

シエルターの一番奥には、「私たちのところには最後（さいご）に来てね」と書かれた張り紙（かみ）がしてある部屋があります。そこはF054（猫白血病ウイルス）陽性の猫たち専用の一室で、<sup>(1)</sup>シエルター内の猫に感染（かんせん）が広がるのを防ぐため、そのような注意書きが掲（か）げられているのです。私は小学五年生の女の子ケネデイが、その部屋で読み聞かせをするのに同行（どうぎょう）させてもらいました。

ケネデイが絵本（えほん）を抱（かか）えて部屋に入ると、そこで暮（く）らす二匹のうち、茶トラ猫はひとしきりケネデイのズボンの匂（にお）いを嗅（か）ぐと、さっと高いところ（たかいところ）にかけ登（のぼ）りました。キジ白猫のほうは隅（すみ）つこのほうに隠（かく）れてしまいました。

ケネデイはベンチ（ベンチ）に腰（こし）かけ、絵本を開きます。今日（けふ）彼女（かのじよ）が選（えら）んだのは『おおきな木』と『もしもねずみにクッキーをあげると』。どちらも長く読み継（つ）がれてきた名作絵本です。ケネデイは穏（おだ）やかな声（こゑ）で 3、でも猫たちにも聞こえるように読み聞かせを始めました。

「あるところに、いっぽんの木がありました……」

読み進むうちに、高いところから見下ろしていた茶トラ猫が、少しずつ下のほうに降りてきました。やがて、ついに手の届（き）く距離（きょり）まで来て体をさわらせてくれ、ケネデイは嬉（うれ）しそうににっこり。一冊（いっさく）目を読み終わ（おわ）り、二冊（にさく）目を読んでいると、今度は隠（かく）れていたキジ白猫も出てきて、ケネデイのすぐ横（よこ）に座（ま）りました。読み聞かせを続けながら、ケネデイはそつと片手（ひたて）をのばして背中（せなか）を撫（な）でます。キジ白猫はもう逃（に）げることなく、目を細（こま）めて気持ちよさそうにしていました。

ケネデイは猫を怖（おそ）がらせないように、静（しず）かに 3 動（うご）いています。けっして急（いそ）な動きはしません。自分（自分）から猫（猫）に近づ（き）くこと（こと）もせず、猫（猫）のほうから来るまでじっと待（まち）っていました。その様子（ようす）からは、<sup>(2)</sup>彼女（かのじよ）が猫（猫）という動物（どうぶつ）をよく理解（りかい）し、尊重（そんじゆう）していることがう

かがえました。猫たちのほうも「この子なら大丈夫」と心を開いたようです。

猫は非常に音に敏感ですが、穏やかな人の声は耳に心地よく響き、安心感を与えます。読み聞かせの時間は約二〇分でしたが、(3) 初対面の子どもと猫との距離が短時間のうちにこれほど縮まったことに驚きました。

このプログラムに参加して三年になるといふケネディは、こう話していました。

「本は好きなんだけど、声を出して読むのは苦手だったの。でも、いまは教室でみんなの前で読むのが少し楽になったかな」

そして、「(4) 猫たちが人に慣れるお手伝いができて、私も大好きな猫にさわれる」と笑顔を見せました。

この日シエルトーには六〇匹ほどの猫がいましたが、私はケネディがFOMA陽性の猫たちの部屋を選んだことに(4) 感銘を受けました。現在ではFOMAに感染していても、適切な健康管理により発症を遅らせることができるかとわかっていきます。それでも、健康な猫たちに比べれば寿命は短く、発症した場合はさまざまな医療的ケアが必要になるため、おそらく引き取られるチャンスはあまり高くない猫たちでしょう。そんな猫たちのために自分ができることをしたい。ケネディのなかには、弱いものをいたわる気持ちを感じていました。

子どもたちには慈しみの心が育まれ、読書力も向上する。猫たちの社会化も進み、譲渡されるチャンスが高まる。まさに(5) ウィン・ウィンであるこのようなプログラムには、大きな可能性があります。

大塚敦子（『動物がくれる力——教育、福祉、そして人生』）

※R.F.A.D.プログラム：一九九九年にアメリカで始まった動物介在活動のプログラムで、セラピー犬認定を受けた犬と飼い主（ハンドラー）のチームが、地域の学校、図書館、書店などに赴き、子どもたちが犬に読み聞かせをする機会を提供している。二〇二二年には全米だけでなく、ヨーロッパ、アジアも含めて二五か国で実施されている。

問一——線部①「当時く男の子」とありますが、本を読むことに苦手意識を持っていた「コルビー」にどのようなことが起こりましたか。次のア～カの中から三つを選び、起こった順番に並べ替え、記号で答えなさい。

ア 読み聞かせプログラムの研修に参加した

イ 猫たちに読み聞かせを始めた

ウ 静かな落ち着いた声で読むことを学んだ

エ 自信がついて、成績が向上した

オ 「ブック・バディ」への参加をすすめられた

カ 自分からは猫に近づかないようにした

問二——線部②「嬉しい驚き」とありますが、これはどのようなことですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 「ブック・バディ」の研究が進んだということ

イ 他の動物愛護団体にも「ブック・バディ」が広まったこと

ウ 猫へ読み聞かせをする親が増えたということ

エ 家庭に引き取られる猫が増えたということ

問三——線部 a～d の「いる」の中から、働きの異なるものの一つを選び、記号で答えなさい。

問四——1 にあてまはる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 手間が増えた

イ 日数が短くなった

ウ 係員が少なくなった

エ 手続きが複雑になった

問五——線部③「そのことをく研究」とありますが、三人の中学一年生がこの研究について、次のような話し合いをしました。後の(i)、(ii)の問いに答えなさい。

華子 この研究の「目的」は、シェルターにいる犬や猫に読み聞かせをする時に、人間の声と存在がどんな影響を及ぼすかを調べることだね。

晃子 それを明らかにする「方法」として、ここでは、イの、犬や猫の行動を比較しているね。

メイ この「方法」を用いると、どんな「仮説」が立てられるかな。

華子 犬や猫は、人間よりはるかに音に敏感だから、読み聞かせを録音した人間の声に興味を示すと思うな。

晃子 そうだね。ただし、ペットとして飼われている犬や猫とちがって、シェルターの動物たちは人間に強い警戒心を持つ

ているから、人に慣れて読み聞かせに注意を向けさせるまでに、時間がかかりそうだな。



メイ 声や音も大事な要素だけど、犬や猫は、人間がどんな様子かもよく観察しているよね。

華子 そうそう。家で飼っている犬は、飼い主をよく見ているよ。そうすると、「仮説」としては、とまとめられるね。

晃子 実際の研究では、どんな「結果」が出たのか、見てみよう。犬と猫で、反応にちがいはある？

メイ 人がそばにいる場合に、犬は人に近い位置で過ごしたり、声のする方を見る時間が長かった。猫は人の注意を引こうとする行動を見せているね。

華子 ということは、私たちの予想した「仮説」がある程度、立証されたわけだね。

晃子 このことから、研究者たちは「考察」として、人がそばにいて読み聞かせをすることで  になると考えているね。

(i) イ、ハ にはどのような言葉が入りますか。それぞれ本文の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

(ii) ロ にはあてはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 犬や猫は、人間の声よりも姿が見えると興味を示す      イ 犬や猫は、人間の姿よりも声に激しく反応する

ウ 犬や猫は、人間の声と姿がある場合に強い反応を示す      エ 犬や猫は、人間の声だけの場合は興味を示さない

問六 2 にはあてはまる見出しは何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 進化する猫への読み聞かせ      イ 野良猫の健康管理を手伝う

ウ 病弱な猫をいたわる方法      エ 保護猫の社会化のために

問七 3 (二か所) に共通してあてまはる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア はっきりと      イ あっさりと      ウ ゆっくりと      エ どっしりと

問八 — 線部④「感銘を受けました」とありますが、筆者はどのようなことに感銘を受けたと考えられますか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア ケネデイが病気の猫たちに読み聞かせをしたように、弱い立場の動物に対して思いやりを持っていること

イ ケネデイが元気な猫にも病気の猫にも読み聞かせをしたように、分けへだてをしない公平性を身につけていること

ウ ケネデイが猫たちに読み聞かせをすることで、人前で声を出して読むことが苦手な自分の弱さを乗り越えたこと

エ ケネデイが読み聞かせを通して、猫に近づくよりも、猫にとって心地よい状態を作ること優先したこと

問九 — 線部⑤「ウイン・ウインである」とありますが、ウイン・ウインの線部①～④の中で「ウイン・ウイン」の関係になっているものはどれですか。正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

三 次の①～⑧の — 線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- |              |                 |                |
|--------------|-----------------|----------------|
| ① エンマンに解決する  | ② ホンリヨウを発揮する    | ③ 友人にオンギを感じる   |
| ④ キヌオリモノの生産地 | ⑤ データをシヨウゴウする   | ⑥ 山の頂上からイチボウする |
| ⑦ 髪をタラした少女   | ⑧ イツキヨリヨウトクをねらう |                |



